

## 天声人語

英国でドリリーという名のクロ  
ーン羊が誕生した。1997年  
のそんなニュースが、どれだけ  
衝撃だったか。科学者はもちろ  
ん、政治家や宗教家をも動揺さ  
せた。このまま研究が進めば、

クローン人間もありうると思われたから  
だ▼「人間は、実験室ではなく、人間ら  
しく生まれる権利を持っている」。そんな  
な声明をローマ法王の側近が出し、人間  
のクローンを禁ずるよう求めた。欧米で  
次々と動きが出て、日本でも禁止する法  
律ができた▼ドリリーから約20年、今度は  
サルチンパンジーのクローンという。中国の研究チー  
ムが「中中」「華華」の2匹の誕生に成  
功したと、論文で発表した。医療研究が  
目的というのが「原理的には人間にも応用  
できる」と共同執筆者の一人が英紙に語  
った▼大ニュースだが、ドリリーほどの衝  
撃がないような気がして仕方ない。もし  
かしたら「ヒトの生に科学の手が入る」  
のに私たちが慣れたせいだ。体外受精は  
一般的になり、遺伝子操作によるデザイ  
ナーベビーの議論もある▼クローン人間  
とはいわば、年の離れた一卵性双生児の  
ようなもの。誰が望むのか、との見方も  
あろう。ただ成功したのが中国というの  
は気になる。独自の尺度で物事を進める  
国である。やっつけていい事と悪い事の線を  
どう引くか、国際社会が問われる▼ドリ  
リーを誕生させた科学者の著書によると、  
当時、子どもを失った親からこんな電話  
があった。「愛する人を再生すること  
が可能でしょうか」。現時点では不可  
能です、というのが彼の答えだった。